



# 投資に満足しているのはどんな投資家なのか？

日本ファイナンス学会第6回秋季大会報告内容

野村證券 金融工学研究センター エグゼクティブディレクター

証券アナリストジャーナル編集委員

慶應義塾大学客員研究員、MPTフォーラム幹事、投資信託協会客員

大庭昭彦

2025年1月

「投資に満足しているのはどんな投資家なのか？」

梶田幸作(野村アセット)、本間光(野村アセット)、大庭昭彦(野村證券)

2024年のデータで日本の個人投資家の満足度を説明する要因を分析し、次の知見を得た。

- 投資満足度には主観的な金融リテラシーが高く、自認するパフォーマンスが良いこと、投資家優遇制度を利用・評価していること、注目している情報媒体がある、などのことが強くプラスに関係している。
- 逆に、高齢、女性、主婦、制度利用無し、参考にしている情報媒体がない、保有している投信の種類がわからない、投資目的がない、といったことがマイナスに関係している。
- 主観的な金融リテラシーは投資経験の長さ、金融教育の受講経験、客観的な金融リテラシー、パフォーマンスで説明される。コントロール変数で見ると性別では男性、年齢は若いほど高い。

1. データ
2. 従来研究
3. 重要項目の抽出
4. 投資満足度 に関する分析
5. 主観的な金融リテラシーに関する分析
6. まとめ

- 対象：日本国内20歳以上の個人25,764サンプル（エリア×性別×年代の母集団準拠）。
- 方法：インターネットによるアンケート調査
- 時期：2024年2月28日から3月4日

基本属性別構成比

| 区分  | 項目      | サンプル数  | 構成比  | 区分   | 項目       | サンプル数  | 構成比 | 区分   | 項目        | サンプル数 | 構成比 |
|-----|---------|--------|------|------|----------|--------|-----|------|-----------|-------|-----|
| 全体  | 合計      | 25,764 | 100% | 職業別  | 会社員等     | 9,926  | 39% | 年間収入 | わからない等    | 7,724 | 30% |
| 年代  | 20歳代    | 3,322  | 13%  |      | 自営/自由業   | 1,677  | 7%  | (世帯) | 300万円未満   | 5,000 | 19% |
|     | 30歳代    | 3,852  | 15%  |      | 派遣・契約社員等 | 5,079  | 20% |      | 600万円未満   | 7,137 | 28% |
|     | 40歳代    | 5,084  | 20%  |      | 学生       | 646    | 3%  |      | 1,000万円未満 | 4,286 | 17% |
|     | 50歳代    | 4,610  | 18%  |      | 専業主婦(夫)  | 3,602  | 14% |      | 2,000万円未満 | 1,448 | 6%  |
|     | 60歳代    | 4,380  | 17%  |      | 無職他      | 4,834  | 19% |      | 2,000万円以上 | 169   | 1%  |
|     | 70歳以上   | 4,516  | 18%  | 投資家別 | 投資家      | 9,667  | 38% | 金融資産 | わからない     | 9,348 | 36% |
| 性別  | 男性      | 12,776 | 50%  |      | 非投資家     | 16,097 | 62% | (世帯) | 金融資産なし    | 7,419 | 29% |
|     | 女性      | 12,988 | 50%  | 投信保有 | 投信保有者    | 4,635  | 18% |      | 200万円未満   | 3,435 | 13% |
|     |         |        |      |      | 投信非保有者   | 21,129 | 82% |      | 500万円未満   | 1,743 | 7%  |
| 婚姻別 | 結婚している  | 15,050 | 58%  |      |          |        |     |      | 1,000万円未満 | 1,171 | 5%  |
|     | 結婚していない | 10,714 | 42%  |      |          |        |     |      | 5,000万円未満 | 2,141 | 8%  |
|     |         |        |      |      |          |        |     |      | 1億円未満     | 360   | 1%  |
|     |         |        |      |      |          |        |     |      | 1億円以上     | 147   | 1%  |

主要項目についての設問と回答の扱いは以下の様になっている。

- 投資満足度

「投資(資産運用)に対するあなたの満足度をお答えください。」

以下の5つから選択(5, 4, 3, 2, 1を割り当て)

満足、やや満足、どちらともいえない、やや不満、不満

- パフォーマンス

直近1年の、自認しているリターン(%)

- 客観的金融リテラシー

数値を比較する問題を含む、金融についての7つの設問についての正解率

- 主観的金融リテラシーに関する設問

「あなたは、金融リテラシーや金融についての知識が、他の人と比べて高いと思いますか。」

以下の7つから選択(7, 6, 5, 4, 3, 2, 1を割り当て)

とても高いと思う、高いと思う、どちらかといえば高いと思う、どちらともいえない(他の人と同じくらい)、どちらかといえば低いと思う、低いと思う、とても低いと思う

## 媒体例

- 情報媒体：投資（資産運用）に関する情報を得ている媒体  
（右の約50の選択肢から選択。小項目をまとめた中間項目もある。）

- 尊重媒体：投資（資産運用）判断で尊重している媒体  
上に同じ。

- その他

- 複数選択質問：

投資目的、NISA評価点、保有投信（保有投信の種類、アクティブパッシブ別など）、投信購入時重視項目、学歴、職業、年代、投資経験年数等。

- 2値選択問題

積み立て投資をしているかどうか、NISAのつみたて投資枠・成長投資枠を使っているかどうか、金融教育受講経験があるかどうか等。

テレビ  
ラジオ  
日本経済新聞  
読売新聞  
朝日新聞  
その他の新聞  
書籍  
ビジネス・マネー雑誌  
週刊誌  
その他の雑誌  
YouTube（公的機関の公式チャンネル）  
YouTube（金融機関などの公式チャンネル）  
YouTube（有名人などのユーチューバーのチャンネル）  
YouTube（バーチャルYouTuber（VTuber））  
ABEMA  
ニコニコ動画  
その他の動画サイト  
X（旧Twitter）  
Facebook  
Instagram  
TikTok  
LINEオープンチャット  
その他のSNS  
ニュースサイト・ニュースアプリ  
まとめサイト、ランキングサイト  
インターネット掲示板  
個人のブログ  
企業（金融機関を除く）のホームページ  
企業（金融機関を除く）からのメール  
銀行・証券会社などの金融機関のホームページ  
銀行・証券会社などの金融機関からのメール  
銀行・証券会社などの金融機関の店舗・窓口  
銀行・証券会社などの金融機関の担当者  
家族  
知人・友人  
職場（勤務先や労働組合）  
FP（ファイナンシャル・プランナー）  
金融に関するセミナー・講師  
その他  
テレビ、ラジオ  
新聞  
書籍、雑誌  
動画サイト  
SNS  
インターネットサイト、アプリ  
金融機関  
その他  
特になし

- 胡桃澤・森田・大庭(2022)は、中長期投資を軸にして、配当実績や元本保証に拘らず、短期の利益見込みを重視しすぎない商品選択を行うことで、運用成績の満足度向上につながっている可能性がある」と報告している。金融リテラシーとの関係については、例えば Lusardi, Michaud and Mitchell(2017)は、米国家計について(客観的な)金融リテラシーが資産格差の重要な決定要因であると指摘し、日本の家計でも顔、近藤、白須、三隅(2019)では(客観的な)金融リテラシーの高さや専門家の助言が投資リターンを高める傾向があったと指摘する。
- 一方、坂野・小西(2022)はメタアナリシスの結果を総合すると、従来の金融知識を教えるだけの金融教育は金融行動に非常に弱い正の効果しかなく、金融行動を改善するには金融リテラシーの新しい尺度と応用が必要であることが主張されている。こうした議論も踏まえた形で、金融リテラシーを主観と客観に分けて論じたものとしては、Xiao他(2014)で米国の家計の「総合的な金融満足度について主観的な金融リテラシーが特に重要である」ことを示している。

現在、個別には多くの知見が集まってきているが、投資満足度や投資行動に対して、2種類の金融リテラシーを始めとする中間変数がどのように影響しているかについて、特に国内ではあまりわかっていない。本稿では、これら複数の要因の関係を国内で改めて分析し、今後の金融経済教育に資することを目指す。



# 重要項目の抽出

前述した質問項目の中から318項目を対象として事前分析(単回帰比較)を行う。

## ・ プラスの重要項目①

投資満足度を高める要因のトップは主観的金融リテラシーで、t値でみた重要度も突出して大きい。ついで新NISAの枠の違いを意識した利用や積立投資全般、パフォーマンス(直近1年間における自認する投資成果)などが重要な変数である。重要度6位となったのは客観的金融リテラシーで、こちらも十分重要だが、主観的金融リテラシーに比べるとt値で半分しかないのもわかる。

## 単回帰結果 (+)

| 順位 | 変数名                                    | 係数   | t値    |
|----|----------------------------------------|------|-------|
| 1  | 主観的金融リテラシー                             | 0.26 | 45.30 |
| 2  | つみたて投資枠の利用                             | 0.54 | 29.30 |
| 3  | 現在積立投資をしている                            | 0.46 | 28.61 |
| 4  | 成長投資枠の利用                               | 0.54 | 27.25 |
| 5  | パフォーマンス                                | 0.02 | 27.18 |
| 6  | 客観的金融リテラシー                             | 0.01 | 23.62 |
| 7  | つみたてNISAの利用                            | 0.37 | 20.02 |
| 8  | 情報媒体 (動画サイト)                           | 0.39 | 18.50 |
| 9  | 投資目的 (資産が増えるのがうれしいから)                  | 0.36 | 17.45 |
| 10 | 投信購入時重視項目 (NISAやiDeCoなどの制度が利用できる)      | 0.35 | 17.44 |
| 11 | 投信保有 (米園株式インデックス)                      | 0.44 | 17.31 |
| 12 | 尊重媒体 (動画サイト)                           | 0.44 | 16.60 |
| 13 | NISA評価点 (成長投資枠の年間投資枠が240万円)            | 0.38 | 16.40 |
| 14 | NISA評価点 (非課税保有期間が無制限)                  | 0.29 | 16.34 |
| 15 | 情報媒体 (YouTube (有名人など))                 | 0.42 | 16.28 |
| 16 | 投資目的 (お金を増やしたかったため)                    | 0.28 | 16.00 |
| 17 | 保有投信 (全世界株式インデックス)                     | 0.39 | 15.99 |
| 18 | NISA評価点 (全体の非課税保有限度額が1,800万円)          | 0.34 | 15.66 |
| 19 | 投資目的 (インフレに備えるため)                      | 0.42 | 15.61 |
| 20 | 投信購入時重視項目 (ファンドの規模が大きい)                | 0.38 | 15.50 |
| 21 | 保有投信 (ノーロード)                           | 0.40 | 15.30 |
| 22 | 尊重媒体 (YouTube (有名人など))                 | 0.52 | 15.25 |
| 23 | NISA評価点 (口座開設期間が恒久化)                   | 0.36 | 15.24 |
| 24 | 情報媒体 (SNS)                             | 0.37 | 15.01 |
| 25 | 許容損失率                                  | 0.02 | 15.00 |
| 26 | 情報媒体 (インターネットサイト、アプリ)                  | 0.27 | 14.96 |
| 27 | NISA評価点 (つみたて投資枠と成長投資枠の併用が可能)          | 0.33 | 14.86 |
| 28 | NISA評価点 (つみたて投資枠の年間利用枠が120万円)          | 0.35 | 14.80 |
| 29 | 情報媒体 (X (旧Twitter))                    | 0.41 | 14.11 |
| 30 | NISA評価点 (つみたて投資枠では金融庁の基準を満たした投信に限定)    | 0.45 | 13.88 |
| 31 | NISA評価点 (非課税保有限度額の枠の再利用が可能)            | 0.35 | 13.85 |
| 32 | 金融教育の受講経験                              | 0.31 | 13.49 |
| 33 | 情報媒体 (書籍、雑誌)                           | 0.30 | 13.48 |
| 34 | 主な利用金融機関 (対人・非対人)                      | 0.09 | 13.40 |
| 35 | 投信購入時重視項目 (コストが安いこと)                   | 0.23 | 13.21 |
| 36 | NISA評価点 (成長投資枠の非課税保有限度額が1,200万円)       | 0.35 | 13.21 |
| 37 | NISA評価点 (成長投資枠の対象商品となる投資信託には一定の基準がある)  | 0.47 | 12.73 |
| 38 | 情報媒体 (銀行・証券会社などの金融機関のHP)               | 0.28 | 12.55 |
| 39 | 投信購入時重視項目 (手軽に分散投資ができること)              | 0.32 | 12.53 |
| 40 | 学歴: 大学以上                               | 0.21 | 12.47 |
| 41 | NISA評価点 (運用益が非課税になる)                   | 0.21 | 12.45 |
| 42 | 情報媒体 (ニュースサイト・ニュースアプリ)                 | 0.24 | 12.36 |
| 43 | 情報媒体 (YouTube (金融機関などの公式チャンネル))        | 0.39 | 12.21 |
| 44 | 情報媒体 (書籍)                              | 0.33 | 12.20 |
| 45 | NISA評価点 (自分の好きなタイミングで売買が行える (成長投資枠のみ)) | 0.29 | 12.19 |
| 46 | NISA評価点 (非課税保有限度額の枠が復活するのは、売却した年の翌年)   | 0.47 | 12.02 |
| 47 | 尊重媒体 (SNS)                             | 0.44 | 11.94 |
| 48 | iDeCo (個人型確定拠出年金) の利用                  | 0.30 | 11.51 |
| 49 | 金融教育受講後、投資 (資産運用) を始めた                 | 0.38 | 11.13 |
| 50 | 一般NISAの利用                              | 0.21 | 11.11 |



## 重要項目の抽出

- ・ プラスの重要項目（続き）

利用・注目している媒体としては動画、特に有名人などによる YouTube を使うことの重要度が高い。その他 SNS、金融機関 HP、紙媒体なども相対的な順位は低いが満足度と関係していた。

投資目的としては「資産が増えるのが嬉しいから」「お金を増やしたかったため」「インフレに備えるため」といった、具体的な用途と結びつかない目的を回答している場合の満足度が高い。これはゴールは考えない方が良いということではなく、「気軽に参加した人が結果的に満足している」ということではないかと思われる。

# 重要項目の抽出

## 単回帰結果（マイナス）

### ・ マイナスの重要項目

t値の絶対値が2以上の28項目の結果を示した。NISAなどの「投資家優遇制度を利用していない」、「参考にしている情報媒体がない」、「保有投信の種類、タイプがどれに該当するか分からない」、「投資目的が特にない」などといった要因が投資満足度にマイナスの影響を与えていることがわかる。属性としては高齢・女性・主婦で教育をあまり受けていない、という特徴がある。

| 順位 | 変数名                          | 係数    | t値     |
|----|------------------------------|-------|--------|
| 1  | 制度利用（この中にはひとつもない）            | -0.54 | -32.05 |
| 2  | 情報媒体（特にない）                   | -0.44 | -23.99 |
| 3  | 尊重媒体（特にない）                   | -0.39 | -23.15 |
| 4  | NISA評価点（特にない）                | -0.47 | -22.73 |
| 5  | 保有投信の種類（どれに該当するか分からない）       | -0.55 | -20.72 |
| 6  | 投資目的（特に目的はない）                | -0.47 | -17.54 |
| 7  | 年代：各年代の平均値                   | -0.01 | -14.79 |
| 8  | 保有投信のタイプ（どれに該当するか分からない）      | -0.34 | -14.08 |
| 9  | 学歴：答えたくない                    | -0.51 | -13.50 |
| 10 | 金融教育の受講経験なし                  | -0.31 | -13.49 |
| 11 | 投信購入時重視項目（わからない）             | -0.40 | -13.36 |
| 12 | 投信購入時重視項目（投資信託を購入したいと思わない）   | -0.32 | -10.02 |
| 13 | 年代：70代以上                     | -0.18 | -8.75  |
| 14 | つみたて投資枠での保有商品（どれに該当するか分からない） | -0.36 | -7.99  |
| 15 | 職業：無職                        | -0.16 | -7.08  |
| 16 | 投信購入時重視項目（特にない）              | -0.25 | -7.08  |
| 17 | 性別：女性                        | -0.12 | -7.04  |
| 18 | 職業：専業主婦・専業主夫                 | -0.16 | -6.48  |
| 19 | 成長投資枠での保有商品（どれに該当するか分からない）   | -0.27 | -5.07  |
| 20 | 年代：60代                       | -0.11 | -4.97  |
| 21 | 学歴：高等学校                      | -0.10 | -4.79  |
| 22 | 年代：50代                       | -0.10 | -4.36  |
| 23 | 未婚：既婚者                       | -0.07 | -4.06  |
| 24 | 職業：パート・アルバイト                 | -0.10 | -3.85  |
| 25 | 職業：その他                       | -0.25 | -3.73  |
| 26 | 学歴：中学校                       | -0.24 | -2.95  |
| 27 | 居住地域：地方圏                     | -0.04 | -2.54  |
| 28 | 学歴：短期大学                      | -0.07 | -2.25  |

# 投資満足度に関する分析

投資満足度に対して、単回帰での説明力上位のものからある程度独立していそうなものを定性的に抽出し、コントロール変数として、金融資産額、性別、年齢、学歴、職業を入れて全44変数で重回帰分析を行った。

$$Y_i = \beta_0 + \beta_1 X_{i1} + \beta_2 X_{i2} + \cdots + \beta_{44} X_{i44} + \varepsilon_i$$

*for i = 1, 2, \dots, n*

主観的金融リテラシー  
つみたて投資枠の利用  
成長投資枠の利用  
iDeCo利用  
許容損失率  
投資経験年数  
保有投信（米国株式インデックス）  
保有投信（全世界株式インデックス）  
保有投信（ファンド規模）  
保有投信（ノーロード）  
情報媒体（動画サイト）  
金融教育受講経験あり  
投資目的（資産が増えるのがうれしいから）  
購入時重視（NISAやiDeCoなどが利用..）  
投資目的なし  
制度利用なし  
購入時重視項目なし  
保有投信タイプ不明  
保有投信種類不明  
NISA評価点なし  
情報媒体なし  
尊重媒体なし

金融資産額

性別

年代

学歴：中学校

学歴：高等学校

学歴：高等専門学校

学歴：専門学校

学歴：短期大学

学歴：大学以上

職業：会社員

職業：会社役員・管理職

職業：公務員・団体職員

職業：自営業

職業：自由業・専門職

職業：派遣・契約社員

職業：パート・アルバイト

職業：専門学校・短期大学・大学・大学院生

職業：専業主婦・専業主夫

職業：無職

コント  
ロール  
変数

# 投資満足度に関する分析

投資満足度が高い個人は、主観的な金融リテラシーが高く、自認するパフォーマンスが良いこと、投資家優遇制度を利用・評価していることなどである。コントロール変数の資産額、性別・年齢・学歴・職業などとの関係性は相対的に低い。

重要なポイントとして、客観的な金融リテラシーの影響度は単回帰の場合と比較して大きく減少している。このことは調査国や満足度の定義は違うが、Xiao他(2014)の結果と整合的である。

これは、客観的な金融リテラシーの影響が主観的な金融リテラシーの影響に吸収されている可能性がある。このことの検証も踏まえ、主観的な金融リテラシーの決定要因を分解することを試みる。

|                         | $\beta_i$ | SE     | t.value | p.value    |
|-------------------------|-----------|--------|---------|------------|
| $\beta_0$               | 0.1083    | 0.0258 | 4.1990  | 0.0000 *** |
| 現在積立投資をしている             | 0.0409    | 0.0225 | 1.8190  | 0.0691 .   |
| パフォーマンス                 | 0.2186    | 0.0182 | 12.0370 | 0.0000 *** |
| 客観的な金融リテラシー             | 0.0233    | 0.0219 | 1.0630  | 0.2880     |
| 主観的な金融リテラシー             | 0.2906    | 0.0201 | 14.4470 | 0.0000 *** |
| つみたて投資枠の利用              | 0.0215    | 0.0186 | 1.1570  | 0.2475     |
| 成長投資枠の利用                | 0.0110    | 0.0158 | 0.6970  | 0.4858     |
| iDeCo利用                 | -0.0095   | 0.0140 | -0.6830 | 0.4945     |
| 許容損失率                   | -0.0061   | 0.0160 | -0.3820 | 0.7027     |
| 投資経験年数                  | -0.0519   | 0.0223 | -2.3280 | 0.0200 *   |
| 保有投信（米国株式インデックス）        | 0.0299    | 0.0170 | 1.7640  | 0.0778 .   |
| 保有投信（全世界株式インデックス）       | -0.0257   | 0.0185 | -1.3880 | 0.1651     |
| 保有投信（ファンド規模）            | 0.0284    | 0.0132 | 2.1490  | 0.0317 *   |
| 保有投信（ノーロード）             | 0.0117    | 0.0184 | 0.6360  | 0.5245     |
| 情報媒体（動画サイト）             | 0.0206    | 0.0149 | 1.3790  | 0.1680     |
| 金融教育受講経験あり              | -0.0122   | 0.0147 | -0.8330 | 0.4047     |
| 資産が増えるのがうれしいから          | 0.0171    | 0.0146 | 1.1710  | 0.2417     |
| NISAやiDeCoなどの制度が利用できること | 0.0231    | 0.0146 | 1.5810  | 0.1139     |
| 投資目的なし                  | -0.0606   | 0.0357 | -1.6990 | 0.0894 .   |
| 制度利用なし                  | -0.0943   | 0.0263 | -3.5820 | 0.0003 *** |
| 購入時重視項目なし               | -0.0409   | 0.0412 | -0.9930 | 0.3206     |
| 保有投信タイプ不明               | -0.0189   | 0.0211 | -0.8950 | 0.3711     |
| 保有投信種類不明                | 0.0083    | 0.0251 | 0.3310  | 0.7410     |
| NISA評価点なし               | -0.0699   | 0.0258 | -2.7040 | 0.0069 **  |
| 情報媒体なし                  | -0.0135   | 0.0272 | -0.4940 | 0.6214     |
| 尊重媒体なし                  | -0.0634   | 0.0226 | -2.7990 | 0.0052 **  |
| 金融資産額                   | 0.0198    | 0.0162 | 1.2240  | 0.2210     |
| 性別                      | -0.0134   | 0.0203 | -0.6580 | 0.5104     |
| 年代                      | -0.0215   | 0.0251 | -0.8560 | 0.3920     |
| 学歴：中学校                  | -0.0186   | 0.0248 | -0.7520 | 0.4520     |
| 学歴：高等学校                 | -0.0645   | 0.0623 | -1.0340 | 0.3012     |
| 学歴：高等専門学校               | -0.0113   | 0.0266 | -0.4260 | 0.6699     |
| 学歴：専門学校                 | -0.0272   | 0.0449 | -0.6050 | 0.5455     |
| 学歴：短期大学                 | -0.0376   | 0.0438 | -0.8590 | 0.3902     |
| 学歴：大学以上                 | -0.1013   | 0.0732 | -1.3850 | 0.1662     |
| 職業：会社員                  | 0.0466    | 0.0734 | 0.6350  | 0.5254     |
| 職業：会社役員・管理職             | 0.0175    | 0.0453 | 0.3860  | 0.6994     |
| 職業：公務員・団体職員             | 0.0410    | 0.0433 | 0.9470  | 0.3436     |
| 職業：自営業                  | -0.0065   | 0.0339 | -0.1910 | 0.8488     |
| 職業：自由業・専門職              | 0.0251    | 0.0299 | 0.8420  | 0.4000     |
| 職業：派遣・契約社員              | 0.0378    | 0.0349 | 1.0850  | 0.2781     |
| 職業：パート・アルバイト            | 0.0471    | 0.0515 | 0.9140  | 0.3606     |
| 職業：専門学校・短期大学・大学・大学院生    | 0.0204    | 0.0270 | 0.7550  | 0.4505     |
| 職業：専業主婦・専業主夫            | 0.0271    | 0.0565 | 0.4800  | 0.6315     |
| 職業：無職                   | 0.0440    | 0.0620 | 0.7090  | 0.4784     |

注) R2=0.249、p値が含まれる範囲は\*\*\*で0~0.001、\*\*で0.001~0.01、\*で0.01~0.05。

# 主観的な金融リテラシーに関する分析

## 主観的な金融リテラシーについての重回帰分析

ここでは、投資満足度に強く関係していた変数のうち、制度関連と投資満足度を除いた4変数に、前段と同様なコントロール変数を加えた、22変数の重回帰分析を行った。

$$Y_i = \beta_0 + \beta_1 X_{i1} + \beta_2 X_{i2} + \dots + \beta_{22} X_{i22} + \varepsilon_i$$

for  $i = 1, 2, \dots, n$

結果を見ると、主観的な金融リテラシーは投資経験の長さや金融教育の受講経験及び客観的な金融リテラシーの高さ、パフォーマンス（直近1年間の投資成果）などで説明される部分が大いことが確認できた。コントロール変数で見ると、性別では男性、年齢は若いほど高い。学歴による影響は小さいが、大卒とそれ以外では差異が見られた。

|                      | $\beta_i$ | SE     | t.value  | p.value    |
|----------------------|-----------|--------|----------|------------|
| $\beta_0$            | 0.1054    | 0.0113 | 9.3600   | 0.0000 *** |
| 客観的な金融リテラシー          | 0.1361    | 0.0127 | 10.7470  | 0.0000 *** |
| 金融教育の受講経験            | 0.1626    | 0.0099 | 16.4920  | 0.0000 *** |
| 投資経験年数               | 0.2332    | 0.0129 | 18.1390  | 0.0000 *** |
| パフォーマンス              | 0.1177    | 0.0108 | 10.9320  | 0.0000 *** |
| 性別                   | 0.1352    | 0.0163 | 8.2720   | 0.0000 *** |
| 年代                   | -0.2508   | 0.0153 | -16.3920 | 0.0000 *** |
| 学歴：中学校               | 0.0122    | 0.0139 | 0.8770   | 0.3805     |
| 学歴：高等学校              | 0.0036    | 0.0317 | 0.1130   | 0.9098     |
| 学歴：高等専門学校            | 0.0055    | 0.0146 | 0.3780   | 0.7053     |
| 学歴：専門学校              | 0.0033    | 0.0234 | 0.1390   | 0.8893     |
| 学歴：短期大学              | -0.0073   | 0.0230 | -0.3200  | 0.7489     |
| 学歴：大学以上              | 0.0599    | 0.0369 | 1.6230   | 0.1046     |
| 職業：会社員               | 0.0229    | 0.0454 | 0.5050   | 0.6138     |
| 職業：会社役員・管理職          | 0.0176    | 0.0281 | 0.6260   | 0.5316     |
| 職業：公務員・団体職員          | 0.0250    | 0.0272 | 0.9190   | 0.3581     |
| 職業：自営業               | 0.0025    | 0.0210 | 0.1170   | 0.9068     |
| 職業：自由業・専門職           | 0.0368    | 0.0188 | 1.9570   | 0.0504     |
| 職業：派遣・契約社員           | -0.0263   | 0.0218 | -1.2070  | 0.2275     |
| 職業：パート・アルバイト         | 0.0027    | 0.0317 | 0.0850   | 0.9321     |
| 職業：専門学校・短期大学・大学・大学院生 | 0.0462    | 0.0176 | 2.6250   | 0.0087 **  |
| 職業：専業主婦・専業主夫         | 0.0286    | 0.0348 | 0.8220   | 0.4110     |
| 職業：無職                | -0.0042   | 0.0382 | -0.1090  | 0.9133     |

注)  $R^2=0.219$ 、p値が含まれる範囲は\*\*\*で0~0.001、\*\*で0.001~0.01、\*で0.01~0.05。

本稿では実効性のある金融リテラシーの尺度を考える上で、「投資満足度」を多くの変数で説明してみることで以下の知見を得た。

- 投資満足度には主観的な金融リテラシーが高く、自認するパフォーマンスが良いこと、投資家優遇制度を利用・評価していること、注目している情報媒体がある、などのことが強くプラスに関係している。
- 逆に、高齢、女性、主婦、制度利用無し、参考にしている情報媒体がない、保有している投信の種類がわからない、投資目的がない、といったことがマイナスに関係している。
- 主観的な金融リテラシーは投資経験の長さ、金融教育の受講経験、客観的な金融リテラシー、自認するパフォーマンスで説明される。コントロール変数で見ると性別では男性、年齢は若いほど高い。

こうした研究の進展が今後の金融経済教育、個人投資家の適切な行動と幸福度の向上に役立つことを期待したい。

## 参考文献

- 胡桃澤・森田・大庭、2022、「投資成績が「良かった」のはどんな投資家なのか？」『第30回日本ファイナンス学会報告・予稿』
- Lusardi, Annamaria, Pierre-Carl Michaud, and Olivia S. Mitchell, “Optimal Financial Knowledge and Wealth Inequality,” 2017.
- 顔菊馨、近藤隆則、白須洋子、三隅隆司、2019、「日本の個人投資家のリスク資産投資：金融リテラシーの種類や情報源の違いはどのような影響を与えるのか？」、経営財務研究Vol.39
- 坂野友昭・小西由樹子、2022、「金融教育が金融リテラシーと金融行動に与える影響」『パーソナルファイナンス研究No.9』
- Jing Jian Xiao, Cheng Chen and Fuzhong Chen, 2014, “Consumer Financial Capability and Financial Satisfaction” Social Indicators Research